

明石市労連ニュース

第 324 号

11 年 12 月 6 日

発行 明石市
労働組合連合会

行改で大幅な人件費削減

渴いた雑巾を絞る労働者いじめ

人件費を下げる口実は多々あります。曰く「国の水準を上回っている」「市民の理解が得られない」「財政状況が厳しい」等等。市長からの「給与のさらなる適正化について（要請）」を受けて次の言葉が思いつかびました。

「乾いた雑巾をさらに絞る」。トヨタのカンバン方式による合理化がこう呼ばれる。

るそうです。「これ以上合理化できる余地はもうないのに、さらに合理化を進めたこと」これによって企業は大儲けしたそうですが、下請けや労働者は大変な犠牲を強いられました。

行革で職員数2割削減

表のとおり、明石市の総職員数は、1998年度（平成10年度）の2902人をピークに減少し、2011年4月には、2386人と516人（▲17.8%）も削減されています。

大幅削減された賃金制度

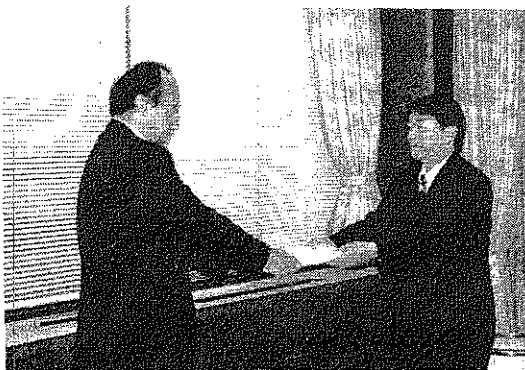
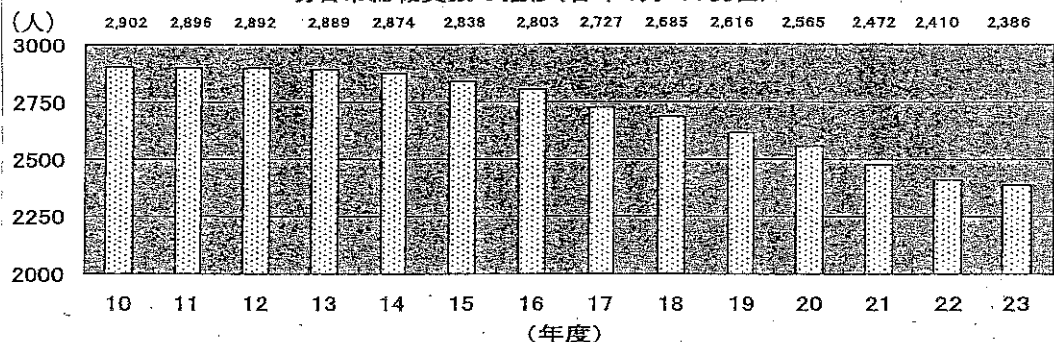
このままの「行政改革」で人件費は大幅に削減されているのです。

さらには、2007年度から2年間は、5%から2%の「賃金カット」にも協力してきました。

これ以上の賃金削減は、まさに「乾いた雑巾をさらに絞る」ということです。

現在のデフレの経済状況でさらに職員の賃金を下げることが、地域経済にとってもよいものとは思えません。私たちの「生活を守る」ためにも当局の賃金合理化要請を跳ね返そう。

明石市総職員数の推移（各年4月1日現在）



反対署名を提出

市労連は、11月29日集約した1072人の「賃金合理化反対の署名」を和田理事に提出しました。

署名提出にあたって宮本議長は、「組合員からも手当削減反対について多くの意見をいただいております。署名の重みを十分受けとめてもらいたい」と組合の決意を伝えました。

大切な「ひと」のために

●国体生命共済
●民権共済
●学資共済
●海外旅行共済
●行楽・レクリエーション共済
●スポーツチーム共済

あなたの声をお聞かせください。

●過去の全職員アンケートの結果を何故利用するのか分からない。

多くの職員が、職員としてのやりがいの源は「お金」ではないと答えているというが、「やりがいの源の一つだけあげるとしたら何ですか」という問いに対して「お金ではなく、仕事の成果を感じられることや人の役に立つこと又は人から必要とされていること」と真摯に答えた結果であり、決してお金は必要ではないと答えたのではない。

我々は震災支援やさまざまな合理化に協力してきたが、度重なる賃金カット要請には耐え難い。お金が必要ではないという職員がいるならば、その方にボランティアで仕事をしてもらうべきではないか。（明石市水道労働組合）